



ふたはの桂

京都府大広報 **No.185** | 2020.3

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY

実習 (ぶどうの袋かけ)



実習 (田植え)



精華 キャンパス

特集

合同本館と桜



地域貢献活動 (ユースカルチャーデー)



エコタイプ次世代植物工場



特集 精華キャンパスについて … 2

CONTENTS

地域連携・地域貢献 … 4 国際交流 … 6

各学部・研究科の取り組み

文学部 … 7 公共政策学部 … 7 生命環境科学研究科 … 8

受賞情報 … 9 市町村研修生からのメッセージ … 10 同窓会へのお礼 … 10 ふるさと納税のご案内 … 10

退職教員からのメッセージ … 11 ニューフェース … 12

<https://www.kpu.ac.jp/>

特集

精華キャンパスについて

① キャンパス概要

精華キャンパスは、京都府南部、けいはんな学研都市の一部をなす精華町の緑豊かな丘陵地に位置しています。下鴨キャンパスの約1.4倍14.6haの面積を有し、生命環境学部附属農場エリアと産学公連携研究拠点施設エリアで構成されています。



① 生命環境学部附属農場エリア（平成9年開設）

水田、畑、果樹園など3.5haの圃場とガラス温室、作業棟などの設備を備え、実験・研究で必要な各種植物の栽培や、実習等で活用しています。

また、農場管理棟には、研究室や実験室、下鴨との遠隔授業も可能な講義室、セミナー室などの他、宿泊可能な休養室、軽食室なども備えています。なお、京都府農林水産技術センター生物資源研究センターが合築されており、遺伝子工学、細胞工学の2研究室はセンター側に所在し、教員は京都府職員を併任しています。

農場での収穫物は定期的に一般販売を行っており、販売日や販売予定の農産品は附属農場ホームページに掲載しますので、是非

ご利用ください。（1月から5月頃までは販売は休止。）



ガラス温室



果樹園（ブドウ棚）

② 産学公連携研究拠点施設エリア（平成23年開設）

元フラワーセンターの敷地に開設した施設です。国や京都府の補助を受け、インキュベーションラボや共同利用機器室等を整備し、植物、環境、医薬などに関する研究や大学発ベンチャー、新産業創出などに取り組んでいます。

植物系、動物系実験研究棟とエコタイプ次世代植物工場を備え、

人工光での栄養価が高く、食味が優れ、かつ短期間で収穫できる野菜の養液栽培技術の研究やダチョウの卵を用いた医薬品等の開発などの研究が行われています。

また、エリア内の芝生広場などは無料で一般公開（月曜・火曜を除く）しており、保育園児の遠足などにも利用されています。



植物系実験研究棟



動物系実験研究棟



エコタイプ次世代植物工場（栽培ユニット）

② 教育研究活動

生命環境科学研究科の果樹園芸学、野菜花卉園芸学、細胞工学、資源植物学、遺伝子工学の5つの研究室があり、9人の教員によりゲノムから生産まで幅広い研究が行われています。

また、各研究室に所属している4回生及び大学院生が専門的な実

験・実習を行うとともに、3回生による農場実習を4月から1月（夏期を除く）まで毎週1回実施し、定植から収穫・調製まで一連の農作業について学ぶとともに、2回生の2泊3日集中実習を9月に実施し、稲刈りや果樹の収穫等の作業を学習しています。

研究室紹介

● 果樹園芸学

果樹の生殖機構の解明、異種間交雑を利用した新規果樹の作出、京都府特産果樹の形質評価とその普及など、新品種育成や高品質果実の生産技術に関する研究を行っています。

● 野菜花卉園芸学

野菜の生理障害発生原因究明・防止技術の開発や水耕栽培における施肥効率の高い培養液管理法の開発など、野菜、花卉の高収量、高品質、安定生産を実現するための研究を行っています。

●細胞工学

チャ(宇治茶)など京都ならではの農作物や花に特徴のある植物など多様な植物の花の形態・着色・病気抵抗性などのメカニズムを遺伝子・細胞・組織のレベルで解明し、農産物の品質向上技術につなげる研究を行っています。

●資源植物学

作物ならびに近縁野生種の進化と多様性の解明、海浜植物の生態遺伝学的解明に関する研究や園芸作物の遺伝や生理生態を分子レベルで解析し、新規機能性品種の開発や栽培技術開発に関する研究を行っています。

●遺伝子工学

植物の生長、種子形成、環境への適応などの現象を司る遺伝子についての解析や遺伝子工学的手法を用いた付加価値の高い植物の育成、植物による有用物質生産システムの確立に関する研究を行っています。

学生の声

人見 恵理・石平 あんり(細胞工学研究室 学部4回生)

キャンパスは静かな自然の中にあり、毎日、最寄りの新祝園駅から職員さんにワゴン車で送迎していただけて通学しています。温室や圃場などの施設・設備が整っており、農場の職員さんから、研究材料の栽培に関するアドバイスをいただくこともあり、植物の研究をするうえで

とても恵まれた環境であると感じます。お花見、ソフトボール大会、餅つき実習など、学生、教員、職員さんが一緒に楽しめるイベントも充実していることも魅力の一つであると思います。研究に集中することができ、人と人の距離も近いので充実した研究生生活を送っています。

章 魯閔(資源植物学研究室 大学院博士後期課程3回生)

6年前、私は雲南農業大学との学術交流協定により府大へ留学することになり、精華農場にある資源植物学研究室に所属しました。現在、バラ科果物を中心として果実肉質に関連する成分を研究しています。最初は授業や研究実験に慣れることができませんでしたが、先輩や先生方はいつも諦めず優しく丁寧に教えてくれま

した。今では自立して研究に集中して取り組むことができ、研究の楽しさや難しさを味わっています。研究以外に春のお花見、夏のソフトボール大会、秋の収穫祭、冬の餅つき実習などの農場イベントで、みんなとの距離が縮まり、交流が深くなり、苦楽を共にして農場生活を盛り上げています。



キュウリの収穫



葉もの収穫



トウモロコシの収穫



稲刈り

③地域貢献活動等の取り組み

精華キャンパスでは、圃場等を活用した地域貢献の活動や学研都市エリアに立地している特徴を活かした活動を行っています。こうした中からいくつかを紹介いたします。

農場ユーカーチャーデー

「ユ-」は「University」と「You」を表し、「Culture」と合わせ、大学や農業に親しみを持ち、また農業や植物について知識・経験を深めてもらおうとの意味を込めた造語です。毎年小学生と成人の2コースを開催しており、小学生コースでは野菜の収穫など農作業体験や簡単な実験等を、成人コースでは家庭での農産物栽培方法や肥料・農薬の使用法などの講演・実技等を行っています。



中学生職場体験学習

地域の中学校が取り組む職場体験学習を受け入れ、農作業などの体験を積んでもらっています。令和元年度は精華町、京田辺市の3中学校の生徒を受け入れました。



高大連携

京都府内を始め、近隣府県等の高校生に対して、大学レベルの教育研究に触れることのできる講義・実験等の取組を行っています。

洛いも

奄美、沖縄など亜熱帯で栽培されるヤマノイモの一種ダイショウの中から、食味のすぐれる系統を選別し「洛いも」と命名しました。地元精華町と連携し、特産品として普及をすすめています。また、夏に蔓が成長することから、節電等に役立つグリーンカーテンに適したイモとして新聞などにも取りあげられています。



7 大学連携市民公開講座

学研都市エリアに立地する大学、学研都市推進機構や国立国会図書館と連携し、一般市民向けの講座を開催しており、精華キャンパスの教員も毎年度講師を務めています。

けいはんな

科学体験フェスティバル

学研都市などの大学や研究機関、企業により、子どもたちに科学のふしぎや面白さを体験してもらうため開催されている科学体験フェスティバルに、植物を利用した科学実験で教員・学生が参加しています。



地域連携・地域貢献

府民交流フェスタにて木工作品出展 ～木の香り薫る学び舎整備事業～

生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程2回生 富田 健

京都府立大学の学生や先生方と、京都府高等技術専門校の先生方や訓練生の皆さんと、共同でパーティションとワゴンの二つの木工作品を作りました。

この事業の面白いところは、学生や訓練生が主体となって、予算を組んで木材やその他材料の調達を行い、デザインも全て自分達で考えながら制作を行う点にあります。また、私たちの活動は「京都府公立大学法人学生地域活動支援事業～木の香り薫る学び舎整備事業～」という名称で「地域貢献型事業」として実施したので、例えば如何に「京都府産の木材」を多く用いるか、また今日までの京都の文化的背景を、どのようにデザインに反映させるか等、地元の経済および文化の発展までを考えた活動となり、その過程で地域の文化や歴史について多くを学ぶ機会となりました。

さらに府民交流フェスタに、これらの作品を出展しました。作品を見て、足を止めお声がけ頂いた方の中には、普段木材に接する機会は少ないものの「京都府産の

木材」に興味津々な方々や、逆に林業を営んでいる方からは京都府における林業の現状についてお話を頂ける等、多くの学びがありました。

「お互いの知恵を出し合い協力すること」から「地域への貢献」まで、本活動を通じて私達は多くのことを学んだと感じております。



京都市中央市場でのライター体験と外国の方に向けたフォト・ポッドキャスト作成の活動

文学部 欧米言語文化学科 3回生 明石 桃果、池ヶ谷 愛香、大原 拓実、久留須 樹、西田 京平
4回生 大瀧 花南

私たちはゼミの授業の一環で京都中央卸売市場に行き、京都市中央市場の公式インスタグラムに載せる、「京都市中央市場の仕事人」などというコラムの記事作成と、外国の方にこの市場を紹介するための英語でのフォト・ポッドキャストの作成を行いました。

この活動を通して、私たちは市場に二度訪問しました。一度目は、まずは市場のことを知るために、市場全体を見て回り、青果物のせりを見学しました。実際のせりを見たのは一同初めてで、想像をはるかに超えるスピードで野菜の取引が行われていく光景に、唖然としてただ立ち尽くしていました。二度目の訪問では、実際にせりを運営する卸売業者、いわゆる「せり人」の平岡さんにインタビューをし、働いている姿を見学して、全く知らなかったせりの裏側や市場で働く人々ならではの苦労について詳しく教えていただきました。なお、中央市場の食材を使った『京料理 高澤』オーナーの高澤さんにお話を伺いました。フォト・ポッドキャストの作成については、市場について英語で書いた原稿を映像に合わせて読み上げ、録音するということまで行いました。

これらの活動は市場関係者の方々、Leaf社のライターの

方と協力し、4か月に渡りました。大変な活動ではありましたが、地域に貢献できたという実感とともに、学生のうちになかなかできないような貴重な経験をたくさんさせていただき、中身の濃い、素晴らしい4か月でした。



■ COC+学生チームの活動「宮津グルメマップ作り」

公共政策学部 福祉社会学科 2 回生 上野 信順
 生命環境学部 農学生命科学科 2 回生 尾島 あかり
 森林科学科 2 回生 増田 あすか

COC+学生チームでは、地域創生について学ぶ講義や演習から発展させ、積極的に京都府中・北部の生業や文化に触れ、動画の作成や学生ならではの地域貢献活動を行っています。

昨年10月6日には、宮津市で開催された「海の京都グルメ合戦2019」にボランティアスタッフとして参加しました。地元の方との交流から、宮津には魅力があるにもかかわらず外部にあまり発信できていない料理店が多いという課題を知りました。そこで、宮津商工会議所の

- ・方に、宮津のグルメを堪能できるマップの作製に協力を
- ・仰いだところ、その提案に賛同していただき、共同で作
- ・製を進めていくことになりました。早速12月に、グルメ
- ・合戦の出店店舗で良いなと思ったお店を訪問し取材を
- ・しました。漁場が近いので新鮮な海鮮を堪能できたり、
- ・作り方にこだわった他では食べられない料理を味わえ
- ・たりと、宮津の食に圧倒されました。これらのお店を学
- ・生目線で紹介するグルメマップを作製することができ
- ・ました。



海の京都宮津グルメ合戦の会場の様子



お店での取材の様子

■ 全国公立大学学生大会 (LINKtopos2019) へ参加

生命環境学部 環境デザイン学科 1 回生 美山木匠塾所属 永瀬 遥人

LINKtopos2019はとても有意義なものでした。他大学生との交流、テーマ「防災」について学ぶ時間、そしてその時間を過ごす環境、すべて予想以上でした。今回はそんな3日間の様子を紹介します。

最初、参加者全員でアイスブレイクを行いました。そこで参加者の8～9割が初参加で、一回生も多いことを知り、みんなで気楽におしゃべりをし、安心して大会に参加し始めることができました。

大会は順調に進み、主に災害対策を学びました。その後のディスカッションでは、みんな真剣そのものでした。中には、時間いっぱい話しこむグループもあり、全員が

- ・熱中して取り組みました。
- ・大会期間中に、自分たち「美山木匠塾」の大野区での
- ・活動を紹介する時間もありました。全国の学生に自分
- ・たちの活動を伝えることができました。また、全国の活
- ・動を学べる環境でもありました。
- ・今回の大会を通して、防災の前線を知ることができま
- ・した。また、防災の知識だけでなく、他の参加者の説明
- ・力、理解力、コミュニケーションの多様なやり方を知る
- ・ことができました。思慮深い人、説明がうまい人、的確
- ・に質問する人、人付き合いがうまい人を目の前で見て、
- ・よい例を学べた3日間でした。



フィールドワークで黒潮町の津波避難タワーに行きました

国際交流

■ レーゲンスブルク大学 (ドイツ) 留学体験談

文学部 欧米言語文化学科 2回生 安藤 優理

私は、去年の夏にドイツのレーゲンスブルク大学での3週間の研修に参加しました。英語もドイツ語もそんなに流暢でない私が、果たしてやっていけるのだろうかと思不安もたくさんありましたが、振り返ってみれば本当に貴重な経験だったと思います。特に、ドイツの人々の温かさが今でも忘れられません。大学の先生方は、とても熱心にドイツ語を教えてくださいました。町で買い物や食事をしたときは、お店の人が「どこから来たの?」と声をかけてくれました。日本に興味のあるドイツの方々と交流会では、お互いの言語を交えて会話を楽しみました。勇気を出して寮の共同スペースに行ったときには、みんなとても優しく受け入れてくれて、夜遅くまで話したり歌ったりしました。中には、日本のアニメが好きだという人や、日本人は日本をもっと誇りに思うべきだと言ってくれる人もいました。私が思っていたよりもドイツの人々は日本に関心をもってっていて、却って私

の方が日本について教えてもらったような気がします。今回の研修を通して、さらにドイツの文化に触れて、もっといろいろな人と仲良くなりたいと思うようになり、この春から再びドイツへ約6ヶ月間の中期留学に行くことを決めました。今度は私の方が日本の魅力を伝えていけたらいいと思っています。

■ ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ) 留学体験談

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 博士前期課程1回生 川崎 茉希

私は「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」という留学支援制度を利用して、The University of British Columbiaで4ヶ月間、研究留学させていただきました。私は以前から海外には非常に興味があったものの、1人きりで異なる環境に飛び込む勇気や行動力がありませんでした。でも、やはり海外で挑戦したいという気持ちが強かったこと、行動力の無いままではいけないと思ったことから、自分自身で立てた留学計画を支援してくれる本制度に応募することに決めました。

私は、DNA結合タンパク質の構造機能相関解明を目的として研究に取り組んでおり、さらなる構造機能相関解明につながる知見を違った角度から獲得することを目的としました。最初は、実験の手伝いすらも中々させてもらえず、何をしに来たのか分からなくなった時期もありました。しかし、このままでは日本にいるときと何も変わらないと思い、自分のやりたいことを伝えるまで何度も伝え、先輩に協力してもらいながら、なんとか実験を進めることができました。結果として、測定条件の検討に苦勞し、なかなかデータは得られず、研究に劇的な進歩はなかったかもしれませんが、この留学で得られた多くの方々との繋がりのおかげで、一歩踏み出す勇

気や発信することの大切さなど、失敗以上に得られるものがあり、今後の自分にとって意味のある時間を過ごすことができた留学になりました。

各学部・研究科の取り組み

文学部

古辞書の語彙から、
平安時代の書記言語世界を読み解く

日本・中国文学科 藤本 灯 講師

日本語の表記は、現在にいたるまで、中国から移入した漢字・漢文を基礎として展開してきました。また漢文による知識の受容・理解の過程において、日本では、様々な古辞書が作成されました。例えば漢籍・仏典の用語用字を解説した音義書（『金光明最勝王経音義』）、薬学書（『本草和名』）、漢字字書（『類聚名義抄』）等です（括弧内は例）。これら「漢→和」の辞書が多数作成された一方で、平安時代には、日本人が「漢字で」「日本語を」綴るため「日本語から」「漢字語を」引ける辞書が登場しました。その最初期のものが、私が中心的に研究しているイロハ引き国語辞書『色葉字類抄』^{いろは じりしよ}（院政期成立、30,000字語以上を収録）です。

『色葉字類抄』を編纂した人物については、名前と職階以外、明らかになっていません。また、何のために作られた辞書であるのかも明白ではありません。平安時

代におけるこの辞書のあり方は、収録語彙の性格から推測していくしかないので。当時の様々なジャンルの文献（文学作品、漢文日記、手紙、漢文訓読文等）を用いて、膨大な語彙同士を引き較べる作業は、「労多くして…」と思われがちですが、辞書の収録語彙を鏡として、古代の書記言語、延いては生活や文化の様相に触れることは、古代語研究の醍醐味でもあります。

またこのような語彙研究をより効率的に行うためにデータベースを構築することや、他辞書との比較を行うこと、辞書の受容史を知るために後世の写本群を調べたりすることも、古辞書研究の一部です。



いろは字類抄の伝本



公共政策学部

欧米諸国に学ぶ、京の財政・金融のゆくえ

公共政策学科 三宅 裕樹 准教授

私たちの日常生活を支えてくれている地方自治体。その財政運営は、様々なバランスの上に成り立っています。一例が、金融市場とのことです。地方公共サービスは本来、私たち住民、特に社会的に弱い立場にある人たちのニーズを広く踏まえて、公平に提供されるべきです。とはいえ、そのコストは、金融市場からの借り入れ（地方債）によっても賄われています。そうである以上、運用リターンを追い求めて効率性を徹底重視する投資家にも向き合わなければ、資金が滞って地方公共サービスの提供が困難となります。

地域のためのより良い財政運営に向けて、金融市場の圧倒的な力に流されず、むしろそれを上手に活用する。こうした「財政の論理」と「市場の論理」を調和させる取り組みは、地方債の分野において各国各様の、また時代によって様々な方法があります。特に北欧では、弱い立場にある人たちを支える地方公共サービスがとても充実しています。にも関わらず、というよりそうで

あるがゆえに、各地方自治体が自律的に財政運営を行い、「もたれ合い」ではなく「相互連携」を通じて金融市場をうまく活用しています。臨時財政対策債といった隠れ債務を累増させたり、未だに「もたれ合い」から抜けきれないわが国。北欧をはじめ、欧米先進事例から学ぶべきことは数多くあります。

生まれ育った京都に舞い戻り早1年となります。「京都府における知の拠点」を目指す本学教員として、京都の財政・金融の今後のあり方を、私なりに模索していきたいと思います。



各学部・研究科の取り組み

生命環境科学研究科

駆け出しの研究 ～光の化学～

応用生命科学専攻 機能分子合成化学研究室
今吉 亜由美 助教

当研究室（椿一典教授）は12年目を迎えました。これまでユニークな巨大分子や色素の合成を中心に研究を行い、現在も活発に研究を進めています。しかし本欄では、最近新しく始めたばかりの駆け出しの研究についてお話しさせていただきます。

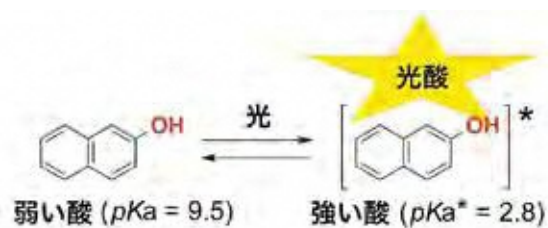
我々は「光酸」という現象に着目し研究しています。光酸とは化合物に光を照射する事で強い酸を発生する現象の事です。例えば2-ナフトールは基底状態では弱い酸（ $pK_a=9.5$ ）ですが、光を当てて励起状態にするとそれより約7 pK_a 単位も強い酸（ $pK_a=2.8$ ）となる事が知られています（図）。このように光酸はこれまで原理としては知られていましたが、実際に光酸を反応に利用した例はほとんどなく、その反応開発は未開拓の研究分野です。

我々は「光酸の有機反応への利用」という挑戦的な課題に挑むべく、まず数種の基質を合成し、それらに実際に光を当てて光酸反応が進行するかを検討しました。す

るとある基質で所望の反応が進行し、さらに光の照射の有無により反応の進行のON, OFFをスイッチできる事を見出しました。

この光酸反応の反応速度定数と置換基の関係を調べたところ、通常的相关関係にはあてはまらず、全く予想できない異常な分散性を示しました。光酸は励起状態の化学で、基底状態で語る一般的な反応とは全く異なる考え方を要します。我々が常識で考えている法則や性質がそのまま通用しない点も光酸の研究の魅力だと感じています。

本研究はまだまだ駆け出しの研究です。やる事、やりたい事は存分にあります。将来的には光の制御により時間制御の反応が可能になると考えています。これからの展開を楽しみに研究に励みます。



生命環境科学研究科

ICT（情報通信技術）を活用した栄養教育の可能性を探る

応用生命科学専攻 食事学研究室 吉本 優子 准教授

皆さんは、スマートフォンでご自身の食事を撮影する食事診断アプリを使ったことはありますか？

健康・食の専門家である管理栄養士・栄養士が、料理のデジタル画像から食材重量を見積って栄養価を計算し、食事診断をする機会が増えています。AI技術が活用されれば、食材重量や栄養価が自動計算されるようになることが期待されますが、AIにも正解を教える先生が必要で、その役割は管理栄養士・栄養士が担うことになるでしょう。そのため、管理栄養士・栄養士には食品や料理のデジタル画像から食材重量を精度良く見積るスキルが必要となります。重量見積りスキルは経験によっても向上しますが、反復トレーニングを行う教育プログラムがあれば、管理栄養士・栄養士の実践力がより高まります。

重量見積りの教育プログラムは、実物食品、フードモデル、写真を利用したものが検討されていますが、デジタル

画像の利用は始まったばかりです。そこで、3次元表示デジタル画像（Virtual Reality画像など）を利用した教育プログラムの検討を進めています。実際に管理栄養士を目指す学生が使用して、重量見積りスキルの変化と、意識や行動の変化を調査することで、教育プログラムの改善を進めています。将来的には、この教育プログラムが管理栄養士・栄養士の生涯教育や、エネルギーコントロールの必要な対象者への栄養教育など、さまざまな栄養教育の場で活用されることを目指しています。



VR学習の様子



受賞情報

公共政策学部／公共政策学研究所

第15回京都から発信する政策研究交流大会（主催：大学コンソーシアム京都）での受賞（以下、4件）

■公共政策学部・3回生窪田ゼミ

「京都市長賞」（口頭発表部門）受賞

窪田ゼミ（3回生の大貫青さん、豊原英海さん、東佐佑さん）が「主権者教育におけるゲームの有効性と中期的効果」の発表により、口頭発表部門において「京都市長賞」を受賞しました。

■公共政策学部・2回生窪田ゼミ

「大学コンソーシアム京都理事長賞」（パネル発表部門）受賞

窪田ゼミ（2回生の高野龍司さん、岡本優斗さん、柴垣奈々さん、下村百合さん、中江真唯さん、中野優さん、松宇拓季さん、数内孝行さん）が「政策系学部による小学生向け主権者教育プログラム」の発表により、パネル発表部門において「大学コンソーシアム京都理事長賞」を受賞しました。

■公共政策学専攻 博士後期課程3回生 池田 葉月さん

「日本公共政策学会賞」（論文部門）、「大学コンソーシアム京都理事長賞」（口頭発表部門）受賞

「政策の説明における動画活用の可能性」の発表により、論文部門において「日本公共政策学会賞」、口頭発表部門において「大学コンソーシアム京都理事長賞」を受賞しました。

■公共政策学部・梅原ゼミ

「優秀賞」（口頭発表部門）受賞

梅原ゼミ（2回生の鈴木さゆりさん、笹岡万枝さん、諏訪克昂さん、山浦大輝さん、山下みずさん）が「茶業を生かした新しい観光の姿」の発表により、口頭発表部門において「優秀賞」を受賞しました。

生命環境学部／生命環境科学研究所 応用生命科学専攻

■細矢 憲 教授（材料設計学専門種目）

「第17回京都環境賞特別賞（環境未来賞）」受賞

「捨てる邪魔モノを京都の新名物に—友禅印刷がさまざまな廃棄物、機能性物質の印刷を可能にした！」の活動により、京都市が主催する「第17回京都環境賞特別賞（環境未来賞）」を受賞しました。

■岡 真優子 准教授（食環境安全性学研究室）

日本酸化ストレス学会「学術奨励賞」受賞

日本酸化ストレス学会において、「マクロファージのエクソソームを介した大腸菌感染によるNO産生機構」の発表により、「学術奨励賞」を受賞しました。

■農学生命科学科研究生 田中 康湧さん（応用昆虫学研究室）

関西昆虫学研究会2019年度大会「若手発表賞」受賞

関西昆虫学研究会2019年度大会において、「寄主適応力とバーコーディング領域には分化が見られるが形態には分化が見られないワジホガが種群内での交配実験」の発表により、「若手発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程2回生 天野 泰輔さん（応用昆虫学研究室）

日本進化学会第21回北海道大会「優秀ポスター発表賞」受賞

日本進化学会第21回北海道大会において、「RNA-seqを用いたゴール形成種-非形成種間での転写産物の比較」の発表により、「優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程1回生 中野 朱理さん（高次細胞機能化学研究室）

日本生物高分子学会2019年度大会

「優秀発表賞」受賞

日本生物高分子学会2019年度大会において、「シロイヌナズナ由来Mg2+輸送タンパク質AtMRS2-10とAtMRS2-1の二価カチオン輸送能とAl3+の応答部位の解析」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程1回生 西口 明宏さん（生命物理化学研究室）

第92回日本生化学会大会

「若手優秀発表賞」受賞

第92回日本生化学会大会において、「抗ニトロフェニル抗体の親和性成熟型-本鎖Fv抗体の抗原認識機構」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程2回生 千賀 明香音さん（生命物理化学研究室）

第92回日本生化学会大会

「若手優秀発表賞」受賞

第92回日本生化学会大会において、「PET分解酵素Cut190のCa2+結合に伴う構造変化と他の金属イオンの影響評価」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程2回生 内富 蘭さん（分子栄養学研究室）

日本アミノ酸学会第13回学術大会

「優秀ポスター賞」受賞

日本アミノ酸学会第13回学術大会（日本アミノ酸学会主催）において、「サルコペニア骨格筋での網羅的代謝産物変化：アミノ酸関連化合物の解析」の発表により、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

■博士前期課程2回生 兼吉 輝さん（機能分子設計化学研究室）

高分子学会第68回高分子討論会「優秀ポスター賞」受賞

高分子学会第68回高分子討論会において、「マイクロフロー空間を用いた局所的な光励起による一次元超分子構造の制御」の発表により、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

■生命分子化学科4回生 小鼓 雄太さん（生命分析化学研究室）

日本ペドロジー学会2019年度大会

「ポスター賞」受賞

日本ペドロジー学会2019年度大会において、「異なる気候インパクトに対する花崗岩類由来の土壌の生成応答」の発表により、「ポスター賞」を受賞しました。

■農学生命科学科4回生 大藪 葵さん（分子栄養学研究室）

第58回日本栄養・食糧学会近畿支部大会

「若手研究者奨励賞」受賞

第58回日本栄養・食糧学会近畿支部大会において、「FOXO遺伝子改変マウスを用いた絶食時の筋萎縮原因遺伝子の探索」の発表により、「若手研究者奨励賞」を受賞しました。

The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF) 2019「若手研究者賞 (Young Investigator Award)」受賞

The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF) 2019において、「Identification of atrophy-related FOXO1-target genes in skeletal muscle of mice」の発表により、「若手研究者賞」を受賞しました。

■生命分子化学科4回生 的場 聖太さん（機能分子設計化学研究室）

日本化学会第9回CSJ化学フェスタ2019「優秀ポスター発表賞」受賞

日本化学会第9回CSJ化学フェスタ2019において、「マイクロ流体の力学的エネルギーを利用した分子間相互作用の誘発と超分子構造の制御」の発表により、「優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

■博士前期課程1回生 中井 志帆さん（分子栄養学研究室）

The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF) 2019「若手研究者賞 (Young Investigator Award)」受賞

The 7th International Conference on Food Factors (ICoFF) 2019において、「Genistein and daidzein promote PGC-1β-mediated energy expenditure gene expression in muscle cells」の発表により、「若手研究者賞」を受賞しました。

■生命分子化学科4回生 石田 あづみさん（生命分析化学研究室）

2019年度日本土壌肥料学会関西支部講演会「優秀発表賞」受賞

2019年度日本土壌肥料学会関西支部講演会において、「日本の長期連用圃場における可給態ケイ酸の定量とその規定要因の解明」の発表により、「優秀発表賞」を受賞しました。

生命環境学部／生命環境科学研究所 環境科学専攻

■高原 光 教授（森林植生学研究室）

日本花粉学会第60回大会「学術賞」受賞

日本花粉学会第60回大会において、「最終氷期最盛期における定量的植生復元のための基礎研究」の発表により、「学術賞」を受賞しました。



■高原 光 教授（森林植生学研究室）

佐々木 尚子 特任講師（森林植生学研究室）

平成29年3月博士前期課程修了 和田 周さん（森林植生学研究室）

日本花粉学会第60回大会「論文賞」受賞

日本花粉学会第60回大会において、「イネ科草本植物6種の花粉生産量—定量的植生復元の基礎資料として」の発表により、「論文賞」を受賞しました。

■博士前期課程2回生 朝倉 和彦さん（生活文化・生活美学研究室）

博士前期課程2回生 長田 拓也さん（建築意匠学研究室）

キルコス国際建築設計コンペティション2018

「金賞・銀賞・銅賞」同時受賞

キルコス国際建築設計コンペティション2018において、「Air」の発表により、「金賞・銀賞・銅賞」を同時受賞しました。



■博士前期課程1回生 堀山 彰亮さん（生物材料物性学研究室）

公益社団法人日本木材加工技術協会第37回年次大会「優秀ポスター賞」受賞

公益社団法人日本木材加工技術協会第37回年次大会において、「オイルパーム幹の有効利用技術の開発」の発表により、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

日本材料学会関西支部第14回若手シンポジウム「ポスター支部長賞」受賞

日本材料学会関西支部第14回若手シンポジウムにおいて、「高耐久性ウリン材における端材の有効利用技術の開発」の発表により、「ポスター支部長賞」を受賞しました。

- 博士前期課程1回生 大杉 悟司さん(建築計画学研究室)
博士前期課程1回生 藤原 悠さん(建築意匠学研究室)
博士前期課程1回生 井上 あいさん(建築意匠学研究室)

**ひろしま建築学生
チャレンジコンペ2019
「審査委員長特別賞」受賞**

広島県主催「ひろしま建築学生チャレンジコンペ2019」において、「風屋根の開処-間合いを生み出す縁-」の発表により、「審査委員長特別賞」を受賞しました。



- 森林科学科4回生 丸岡 優里さん(木質生化学研究室)
**第4回次世代生物研究会
「最優秀ポスター発表賞」受賞**

第4回次世代生物研究会において、「マツタケの液体培養菌糸の継続培養試験」の発表により、「最優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

- 博士前期課程1回生 大杉 悟司さん(建築計画学研究室)
環境デザイン学科3回生 川島 史也さん(建築計画学研究室)
環境デザイン学科3回生 新城 有布菜さん(建築計画学研究室)
日本建築家協会東海支部 第36回JIA東海支部設計競技「銀賞」受賞
日本建築家協会東海支部「第36回JIA東海支部設計競技」において、「身体を持たない他者と暮らすことは私たちの身体をもう一度考えること」の発表により、「銀賞」を受賞しました。

市町村研修生からのメッセージ

精華町からの研修生 「京都府立大学での2年間の経験」

京都地域未来創造センター（精華町職員）橋爪さやか
2018・2019年度の2年間、市町村職員研修生として京都府立大学京都地域未来創造センターでお世話になりました。

私自身、精華町では入庁してから一度も異動経験がなかったため、今回初めての異動がこの京都府立大学となり、転機となりました。

自治体での仕事は「組織」の一員として、上司の指示や組織の方針、ルールに沿って仕事をする場面が多かった一方で、京都地域未来創造センターでは、それ以外にも、特に、自ら考え、企画し、仕事を進めていかなければならないというスタンスを学んだように思います。仕事に限らず何事においても新しいことにチャレンジするにはそれ

・ などの勇気とエネルギーがいると考えますが、その大切さを仕事を通して実感できたのは、私にとって、大きな経験となりました。

・ また、『大学』だからこそその専門的な知識に触れる機会にも恵まれ、府立大学生の学問レベルの高さに圧倒されるなど、様々な場面で良い刺激を受けることもできました。

・ 精華町の職員である私が、京都府立大学京都地域未来創造センターで働かせていただくことになったこの縁に感謝するとともに、これら、大学での仕事を通じて感じたことを大切に今後も様々なことに取り組んでいきたいと思います。2年間ありがとうございました。



同窓会の皆様からご支援をいただきました

この度、同窓会の皆様からのご支援により、新たに照明器具を5号館西側に設置するとともに、2号館西側玄関の照明を夜間自動点灯化することができました。

これは、同窓会として、学生の皆さんからの、大学会館から南門及びクラブボックスまでの通路に夜間照明がほしいという要望に応えるため、照明器具等を設置していただいたものです。

林会長様並びに金本前会長様をはじめ同窓会会員の皆様、心よりお礼申し上げます。



5号館西側照明



2号館西側玄関照明

ふるさと納税制度を活用した府立大学への寄附金にご協力をお願いします!!

次代を担う学生のためのさらなる発展に向け、本寄附金を魅力ある大学づくりのために活用させていただきます。ご寄附にご理解とご賛同を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

詳しくはチラシ・京都府又は府立大学ホームページでご確認ください。

ふるさと納税 京都府立大学

検索

※ゆうちょ銀行・郵便局・銀行からの振込、クレジットカードがご利用いただけます。

【寄附の状況】 2020年2月現在（'18/11～）
合計 ￥4,548,040（60件）

【寄附者のご芳名（2019年4月～）】

この度、ご寄附をいただきました皆様に感謝申し上げます。

荒井 弘晴 様	安部 知子 様	石田 昭人 様
右京 和正 様	久木山 信光 様	神代 純子 様
小石原 代司子 様	小塩 美映 様	曾根 恵子 様
大同 武 様	高田 史代 様	鷹野 静代 様
野口 祐子 様	林 弘明 様	菱田 哲郎 様
平野 貴行 様	古井 哲朗 様	松井 浩二 様
森本 智子 様	山本 範子 様	米津 太之 様

（掲載に同意いただいた方のみ掲載。五十音順）

退職教員からのメッセージ

新しいスタートの起点に

学長 築山 崇

文字通り、長いようで短い28年でした。魅力あふれるたくさんの人たちと出会えたこと、特に、学生のみなさんが自分を磨き将来に向けて力を蓄える大切な時間をともにできたことは、私にとってかけがえのない財産であり、それは、人という存在への深い信頼を培ってくれました。また、この10数年

- 大学全体の運営に深くかかわることになりましたが、そこでも多くの方々のお力添えをいただいて歩みを進めていくことができました。さらに、研究や調査、海外の大学との交流などを通じて、それぞれの地域の文化や暮らし、自然などに触れる機会をいただいたことは、心の引き出しを増やし、これからの人生への貴重な糧となりました。心より感謝申し上げます。



学術文化の香る大学

文学部 日本・中国文学科 山崎 福之

着任以来、28年間にわたり様々な場面でおつき合いくださった、府大、京都府、そして府民の皆様へ篤く感謝申し上げます。

府大の穏やかで堅実な気風は、私には大変心地よいものでした。周囲の方々に支えられて専門分野の研究が進められ、学生、院生の諸君とも関連で伸びやかな関係を持つことができ、充実した歳月が過ごせました。もう28

- 年にもなるのかと、感慨深いものがあります。この最後の年になって、専門の万葉集がにわかに脚光を浴びて、本が売れたり、講演依頼が次々舞い込んだりと慌ただしかったことも思い出の一つになりました。
- 府大がこれからも優れた研究者に満ちた学問の府であり、日本の学術文化を担う人材を育成輩出して、現代そして未来の社会に貢献する大学として発展されることを祈念しております。



ありがとうございました

文学部 欧米言語文化学科 桐山 恵子

これまで大変お世話になりました。在職中に色々とお気遣い頂き、親切

- にしてくださったすべての方々に感謝の気持ちをお伝えして、退職のメッセージとさせていただきます。本当にありがとうございました。

着実な発展を期待しています

公共政策学部 公共政策学科 中島 正雄

1985年4月、文学部講師として着任したのが、つい先日のことのようです。在職した35年間で、本学に起こった最大の出来事は、2008年の法人化だと思います。法人化により様変わりしたことの一つは、本学と京都府との関係が透明化されたことです。私が着任した頃は、両者の関係は雲に

- 自治体とはお互いに距離を保つことが賢明である」といった風潮が広がっていたと思います。法人化はこうした状況を一変させました。
- 透明化に伴い、京都府からの期待や要請が強まっています。それに応えつつ、大学の核となる教育と研究の一層の充実に向けて、本学の側からも要求を強めていっていただきたいと思います。応援し続けます。



母校での33年間

公共政策学部 福祉社会学科 上掛 利博

1974年に府大の文学部に入学し、良い先生たちとの出会いもあって大学教員の道を志しました。幸にも1987年から母校の教壇に立つことができ、自分が学生だったら受けたと思う講義をしようと心がけました。また、1994年40歳の時にノルウェーで在外研究をして、北欧の福祉社会の実際を知り「普遍主義の福祉」を理解することができたので、その成果

- を府民に還元すべく公開講座などに努めました。
- 研究室の壁に旧教育基本法が張っており、「普遍的にしてしかも個性豊かな文化の創造を目指す教育」「實際生活に即し、自発的精神を養い、自他の敬愛と協力によって、文化の発展と創造に貢献する」などに線が引いてあります。これから求められるのは「生涯学習社会」、読書の楽しみを続けて行きます。33年間、ありがとうございました。



ありがとうございました

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 寺林 敏

27歳で京都府立大学に着任し、浮気もせず府大一筋に奉職させていただき、今年定年を迎えることになりました。着任した当時の下鴨農場には果樹園、畜舎、水田、畑があり、そして立派なガラスハウスが立ち並んでおりました。恵まれた農場で教員は研究と教育に打ち込むことができましたし、院生・学生達も多くのことを学び、貴重な経験を積んだことと思いま

- す。精華町にも農場ができてからは、精華農場の教員の絶え間ない努力と情熱で立派な農場となり、数々の教育・研究の成果を上げてこられました。いまの私にとっては、「農場を去る」というのが素直な心情です。最後に一言。これまでに本当に多くの先生、職員、院生・学生さん達には大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。長い間ありがとうございました。



府大での尊き25年

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 久保 康之

京都府立大学に奉職し、25年が過ぎました。この間、教員、事務職員の方々には大変にお世話になりました。また、個性豊かで優秀な学生たちとともに過ごした25年は貴重な宝です。様々な思い出がありますが、教務部長を務めたときに、「行動憲章」の起草委員長として、大学構成員の総意として、率直な議論を重ねながら憲章をまとめることができたことは大きな財産です。また、生命環境科学研究科の初代の研究科長を拝命し、文化の異なる学部間の融合による、それこそ多文化主義の尊重を実践的に学ぶことができました。また、当時の懸案でありました稲盛記

- 念会館が建つ下鴨農場の将来計画について、道筋ができましたことに安堵しました。また、雲南農業大学（中国・昆明市）との交流発展には全学の先生方、代々の学長にも大変にお世話になりました。とりわけ井口和起先生、渡辺信一郎先生とは雲南農業大学とともに訪問する機会があり、人間交流、文化交流を学ばせていただきました。研究面でも「重点戦略研究」のご支援が、大型競争的資金の獲得につながり、感謝しております。京都府立大学で学んだ様々な経験を生かし、今後に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



退職教員からのメッセージ

府大の皆様に感謝

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 小保方 潤一

農学生命科学科の発足と同時に本学に赴任しました。その頃は研究科の面積不足が深刻で、3年間は前任地に研究拠点を残したまま、夜な夜な名神高速を疾走しておりました。やがて、当時の田中研究科長ほかの皆様のご尽力で研究室も確保でき、2011年には研究室も無事に移転して、現在に至って

います。この間、優秀な学生さんに恵まれ、また多士済々の同僚の皆様に助けられ、「ゲノムの進化メカニズム」という基礎的な研究を続けて来られました。今後は、異動先でこれまでの研究をさらに発展させたいと思っております。定年を待たずに本学を辞することになりましたが、これまで支えて下さった多くの皆様に、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。



京都府立大学で約20年を過ごして

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 井上 亮

私は学生・教員としてあわせて約20年間を京都府立大学で過ごしました。この間、大学は時代の流れと共に大きく変化し、「建物を除けば」、私が学生時代を過ごした大学と今の府立大学との共通項を探すほうが難しいと思い

ます。府立大学の良さは教育面では学生と教員の距離が近いこと、研究面では色々な面で小回りが効くことかと私は考えていて、この2点はまだ残されていると信じています。ただ、これから大学はさらなる変化を求められるでしょうから、その変化のなかでこの2点が消えないようにして頂ければ嬉しく思います。今後も、京都の教育を支える大学であり続けることを、一卒業生としても期待しています。長い間お世話になりました。

目標は京都府立大学

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 椎名 隆

植物分子生物学の拠点と憧れていた京都府大に、胸を躍らせて赴任したのは20年前。いざ来てみると、クーラーはない、ポストは雇えない、電子ジャーナルもウエルカムセミナーもない。そして建物は古くて狭い。文句を言っているも仕方ないので、皆さんと一緒に少しずつ改善してきました、今の府立大学は随分魅力的になったと思います（建物を除けば）。また、京都

植物バイオテック談話会や植物園マンスリーアカデミー、京都農商工連携講座、サイエンスアゴラなど、大学の名前を使った勝手連的な活動も色々やってきました。学生に「先生遊んでいないで研究してください」と言われるほど。4月からは別の大学で新学部スタートに取り組みますが、伝統あるアカデミックな京都府大を目標に頑張ります。京都府立大学が、ますます立派な大学に発展されることを祈っています。



住居学科と環境デザイン学科の32年間

生命環境科学研究科 環境科学専攻 松原 斎樹

32年前に生活科学部住居学科に着任してから長くお世話になりました。着任の年の6月に5号館西側部分が竣工しました。1997年に公大設で人工気候室が設置されて以後は、いろいろな実験を行いました。また、地域貢献型の研究として、住まいの温暖化防止、長岡京市の学校空調の効果検証、老人施設の熱中症予防等

にも取り組みました。大学院DCの設置申請を担当し、設置ができた時の喜びはひとしおでした。さらに、顧問をしていた美山木匠塾と彩京前線がいつでも学長表彰をうけたこともよい思い出です。長年、優秀な学生・院生のみならず一緒に過ごした時間は何物にも代えがたいものでした。長い間、ありがとうございました。府立大学の益々のご発展を祈念しております。



緑豊かな景観をいつまでも

生命環境科学研究科 環境科学専攻 高原 光

昭和49年春、趣のある木造の本館で入学式があり、過激派の乱入で中止になりました。その本館は模型が応接室に残っているだけですが、当時の主要な建物の多くはまだ健在で、合同講義棟横のヌマスギ、大会館前のヒマラヤシーダーなど、キャンパスを取り囲む大きな樹木が、学生たちを見

守ってくれてきました。多くの学生が通った正門も入学式の日から変わっていません。いま、大学を去る時が来ると、思い出のつまったこのままの景観でいてほしい気がしてきました。一方、稲盛記念会館や厩舎館など新しい設備を備えた建物ができて、学問をする環境が改善されてきましたが、緑が少なくてさみしいですね。近代的な建物だけでは北山の環境にそぐわないのでは！伝統の緑豊かな景観を維持しながら、これからも諸施設が更新され、さらに新しい歴史を歩んでほしいと願っています。

半世紀の間に変わった事諸々

生命環境科学研究科 環境科学専攻 池田 武文

樹木・森林の研究・教育に携わり45年を超えました。大学院生となり、樹木の光合成速度を測定し始めた時（1980年代前半）の大気中の二酸化炭素濃度は、概ね340ppmでした。今は410ppmを超えています。急激な上昇です。主に自然に生えている植物を研究対象としてきたこの間、当た

り前に目にしていた植物がそうではなくなってきました。と思います。昨日、人は猛暑と騒いでいますが、何食わぬ顔をしている植物もたくさんいます。複雑です。自然の生き物はそれぞれがおかれた生態系の中で生活しています。人は彼らの生活の場の健全性を、そして地球の健全性を尊重することが大事です。半世紀弱を振り返り、つくづく思っています。

長年の間、学生の教育や研究などの発展にご尽力いただき、本当にありがとうございました。

ニューフェース

令和元年10月着任の教員紹介

生命環境科学研究科 環境科学専攻

講師 関原 隆泰

<主な研究領域>
原子核物理学



我々の身の回りの物質は全て「ミクロなつぶつぶ」である原子からできていますが、その原子の中心にはさらにミクロな原子核があります。私はこの原子核にまつわる物理学の理論研究をしています。最近、原子核中で陽子・中性子に働く従来の核力に加えて、オメガ粒子など別の種類の粒子に働く「新しい核力」の物理が進展しています。私は、実験グループと連携しながら、「新しい核力」はどのような性質を持つのか、別の種類の粒子を構成要素に加えた「新しい原子核」は存在するのか、を探究しています。

生命環境科学研究科 環境科学専攻

准教授 前田 昌弘

<主な研究領域>
建築学、住まい・まちづくり、減災・復興学



災害に強いレジリエントな社会の必要性が高まるなか、縮退が進む日本における住まいの被害の諸相と再建上の課題について調査・研究しています。また、想定外の被害への地域の「対応力」の醸成にむけ、防災まちづくり等の実践に参画し、解決策を探っています。国内の防災まちづくりや被災地復興から国外のコミュニティ再生まで、各フィールドにおける当事者との対話や協働を通じ、近代主義のオルタナティブとなる計画論を再創造し、共有していきます。